

センター名	あさぎり・おおくら総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	朝霧・大蔵

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●支援が必要な住民が速やかに必要な支援につながる環境整備を進める。</li> <li>●センター職員が相談者の相談内容から背景を考え、早期にリスク管理につながる聞き取りができるよう質問力の向上をする。</li> <li>●適切な関係機関に速やかに連携する。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化が進んだ団地や小規模な集合住宅に広報誌を戸別配布した。住民からの希望が多かった地域にサテライト相談会場を設置した。</li> <li>●センター内で総合相談に関する意見交換を実施、相談票をすべて回覧し、聞き取りのポイントをお互い確認し合えるようにした。</li> <li>●既存の窓口に加えコロナ関連等の窓口・制度をセンター内で共有し適切な関係機関に速やかにつながることを意識した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●相談票を共有し、聞き取りのポイントの確認を行った。</li> <li>●評価会議時等にキーワード集計を行い、地域課題分析に向けた協議をして地域へのアプローチができた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●特に自治会回覧が行われない地域等で、センターの役割・機能が未周知のため、相談窓口としてのセンターの周知をする必要がある。</li> </ul>
権利擁護事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●個別事例から抽出された地域の課題分析を行う。地域の抱える課題を地域住民が主体となって考えられる仕組みづくりを行う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●松が丘1丁目県住を対象とした地域ケア会議において、認知症による住民トラブルの情報共有や住民との勉強会、中国残留邦人や中国籍等の住民とのコミュニケーションの問題について、地域住民・自治会や行政、民間企業を巻き込んで会議を開催できた。地域住民や民生委員との関係強化や我が事としての住民主体の意識づくりに繋がった。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●センターが地域住民や行政、民間企業を巻き込んだ地域ケア会議を実施して、地域課題の抽出に取り組めた。また会議を継続的に行えるように取り組めた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●他地区でも同様の取り組みが行えるよう多職種と連携して行う必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●サービス事業所等に対し、権利擁護の視点を持った対応の重要性について認知度を高める。</li> <li>●センターが高齢者虐待防止や消費被害、成年後見制度の利用促進に対応する窓口として認識され、連携していけるように関係作りを行う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●居宅支援事業所や介護サービス事業所を対象とした虐待予防の研修を年1回実施した。</li> <li>●サロン等住民活動の場で、高齢者虐待の予防、消費者被害の対応、成年後見制度の利用促進の啓発を行った。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●常時サービス事業所等との連携、情報共有を行い、支援の中から権利擁護対応の窓口として認識されている。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●居宅支援事業所や介護事業所を対象とした虐待予防の研修を行ったが、連絡が遅れる場合がある。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●圏域内の介護支援専門員が、地域総合支援センターや民生児童委員の取り組みや仕組みを理解し、円滑な連携ができる体制を作る。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護支援専門員と民生児童委員との交流会開催予定であったが、コロナ対策にて2回延期となった。結果的に開催には至らなかったが、介護支援専門員と民生児童委員を対象に実施したアンケート結果を分析後共有した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●アンケート結果から介護支援専門員が地域に関わりやすくなるよう、インフォーマル資源を含む社会資源等の必要な情報を提供できた。それにより、お互いに連携を意識できるようになった。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●民生委員・居宅介護支援事業所の連絡先の情報交換等、さらなる工夫の必要性がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護支援専門員同士のネットワークの構築ができ、実践力向上を目指す。</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年2回(ACP、防災)の研修を開催することによって、介護支援専門員同士が意見交換や情報交換ができる場を設けられた。</li> <li>●地域資源の情報を介護支援専門員に提供した。介護支援専門員と連携しサロンにて活動することができた。</li> <li>●介護支援専門員のスキルアップを目指し、年2回(ACP、防災)の研修会を開催したことで、ケアマネジメントにおける防災計画や虐待対応についての理解を深めた。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コロナ禍において、感染状況に応じた研修形態を自由に選択することができたことで、予定通り年に2回の研修を開催することができた。</li> <li>●インターネット等の通信技術を活用し、居宅介護支援事業所との連携を強化することができた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●居宅介護支援事業所に介護支援専門員が1人の場合、気軽に相談できる場が少ない。</li> <li>●地域の主任介護支援専門員が地域づくりに関わり、活躍できる場が少ない。</li> </ul>
地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちなかゾーン会議で地域課題(坂道・階段の多い地域での生活、認知症の正しい理解)について、幅広い視点での意見交換を実施する。</li> <li>●困難ケースだけでなく予防的な視点での個別ケア会議を開催し、地域での見守り体制のネットワークづくりを行う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちなかゾーン会議の構成員に障害者団体や子ども関係の地域活動者が加わった。コロナ禍でもインターネット等の通信技術を活用して会議を実施し、幅広い視点で意見交換を行った。</li> <li>●地域住民と地域ケア会議を実施し、本人の地域での生活の継続方法を検討する中で出てきた地域課題を分析し、居場所づくりにつなげた。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者だけではない視点で、地域課題を検討する環境整備ができた。</li> <li>●個別地域ケア会議を月平均10件行い、地域での生活支援の方針を検討している。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●まちなかゾーン会議の参画団体の強みをさらに活かす働きかけの工夫をする必要がある。</li> </ul>
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本人の望む暮らしのイメージを丁寧に聞き取り、自助力・互助力活用への働きかけを行いながら、本人にとっての自立した生活を支援する。●地域の課題解決に向けた住民の取り組みやインフォーマルサポート等を含む社会資源情報を幅広く把握し地域での生活を支援する。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●予防ケースを担当するセンター職員が、ツールを活用しながらケアマネジメントの振り返りを実施後、グループワークにて意見交換を行った。</li> <li>●生活支援コーディネーターが作成した地域資源リーフレットをセンター内・地域の介護支援専門員で共有した。</li> <li>●センター広報紙作成時にセンター職員でインフォーマルサービスの情報収集をし、紙面にまとめ住民とも共有した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ケアマネジメントの振り返りにより、利用者の自立に資する支援の在り方を検討できた。</li> <li>●社会資源に関する情報交換の機会が増え、インフォーマルサービスの利用につながった。</li> <li>●総合相談時や担当する利用者に社会資源の情報提供をした結果、利用につながる場面が増えた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●利用者の強みを活用して自立支援につなげる意識が低い。</li> <li>●タイムリーにインフォーマルサービス等の情報を更新する必要がある。</li> </ul>

生活支援体制整備事業	●センター内の多職種、協議体と連携し、高齢者分野だけでなく、障がい、子ども分野の事業所、ボランティアとの交流を深め、地域支え合いを進める。	4	●まちなかゾーン会議に高齢・障害・児童の関係機関が参画した。 ●新しいつながりづくりの検討を行い、インターネット等の通信技術を活用して会議を開催した。 ●障害事業所が役割を担ったことで、住民との交流につながった。	【強みと考える点】 ●各分野の専門職との意見交換ができ、様々な配慮者の視点を共有できる。 参画団体同士の交流が始められている。
	●住民が地域課題を自分ごととして考え、役割や生きがいを持って、配慮が必要になっても住みやすい地域の体制を作る。	4	●まちなかゾーン会議の取組を動画等を用いて報告し、地域での取り組みにつながった。 ●地域にアプローチし、住民との地域ケア会議や座談会を実施。オレンジサポーター養成講座実施・いきいき元気アップ教室立ち上げに結び付いた。	【強みと考える点】 ●動画等のツール活用にて広報啓発の効果が強化できた。具体的な活動を通じて様々な団体との関係形成できた。地域の強みを把握できた。  【弱みと考える点】 ●地域からの要望に対し、早急な取り組みが必要か、将来の不安を見据えて長期的に取組むか分析する必要がある。
在宅医療介護連携	地域住民や圏域の専門職のACPIに対する理解が深まり、早期にACPIに取り組む事業所、住民が増える	3	●人権推進員と連携し住民を対象とした小規模なACP講座を5回開催した。 ●ケアマネジャー交流会(オンライン活用)で家族会議の事例を共有した。	【強みと考える点】 ●住民に対してACPの普及啓発が行っている。  【弱みと考える点】 ●コロナ禍で大人数の研修会が行っていない。
	スムーズな医療介護連携を行うために、地域の連携における課題を分析し、課題をもつ機関にアプローチする		●医療介護連携に対する事例検討を実施した。 ●医療機関巡回を行った。	【強みと考える点】 ●医療巡回を通して、顔の見える関係が構築されつつある。  【弱みと考える点】 ●医療機関へのセンターの周知が不足している。
認知症総合支援事業	●認知症の正しい理解を深め、本人の尊厳を守れるような取り組みができる。	3	●認知症の方の視点や思いを重視した学習会を年1回実施した。 ●まちづくり協議会や小学校の児童クラブと協力し、オレンジサポーター養成講座を実施した。 ●オレンジサポーター養成講座開催に結びついた(115名サポーター養成)。	【強みと考える点】 ●オレンジサポーター養成講座開催の要望が多い。  【弱みと考える点】 ●認知症当事者が発信できる機会や方法が不足している。
	●支え合いができる地域像を目指し、地域課題や他者の問題を我が事として捉えることができるまちづくりを進める。	3	●キャラバンメイトミーティングを開催した。 ●普及啓発(オレンジリングや認知症ステッカー)の強化を図った。個別ケースから座談会や地域ケア会議を行い、認知症の理解を促した。	【強みと考える点】 ●まちづくりへのキャラバンメイトの意欲が高い。  【弱みと考える点】 ●キャラバンメイトの活躍の場をつくる必要がある。
	●相談支援体制の強化	3	●センターに寄せられる初回相談の経路と認知症の有無を調査し、相談支援体制における課題が明かになった。	【強みと考える点】 ●相談の少ない地域や相談経路が把握できた。  【弱みと考える点】 ●自ら支援を求められることができない方へ十分に相談先の周知ができていない。
その他	各中学校区で1か所ずついきいき元気アップ教室を実施。	4	●認知症の相談が多い県住で住民と地域ケア会議を実施し意見交換しながら体操教室の立ち上げを実施した。 ●地域の障害者事業所と相談し、坂地で既存の体操教室に行けない住民の居場所づくりを行った。	【強みと考える点】 ●「地域の課題を解決したい」と考える住民や事業者を確認できた。  【弱みと考える点】 ●コロナ禍における、自主活動の支援の必要がある。
運営改善計画①	取り組みの結果	具体的に取組んだ内容・実績		取り組みにより達成した成果(状態) (※できなかった部分は理由を含めて記載)
	○ 事業改善により目標評価を達成した。	まちづくり協議会、まちなかゾーン会議などで「高齢者、障害者、子ども、子育て世代など配慮が必要な方々の視点」について動画視聴等をした。結果、地域団体やコミセンからの要望で、要配慮者体験会計3回実施に繋がった。		参加者からは「当初はなぜ要配慮者の視点を学ぶのかわからなかったが、学ぶ意味が分かった」「車いすでの坂道の乗り降りを見かけたら声掛けを行う必要がある」など、参加者の関心につながった。
運営改善計画②	取り組みの結果	具体的に取組んだ内容・実績		取り組みにより達成した成果(状態) (※できなかった部分は理由を含めて記載)

【達成度】… 5 (十分に取組んでおり、目指す成果に至った) / 4 (概ね取組んだが、成果は十分ではなかった) / 3 (一部着手したが、取組んでいない部分がある) / 2 (取組計画の立案等はしたが、着手できなかった) / 1 (取組計画の立案等に至らなかった)

2021年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	きんじょう・きぬがわ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	錦城・衣川

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域住民や民生児童委員を始め、さまざまな機関とケースを通じて連携し、課題を抱えた対象者を早期に発見し、早期対応ができる体制を構築する。</li> <li>●生活のしづらさや課題を抱えた人の自己決定支援ができる。課題に対し当事者が向き合い、解決の方向に進む段階にない場合には、当事者が自己決定できるように寄り添う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●センターの役割について民生児童委員定例会で毎回伝えることで、民生児童委員からの相談が増加した。</li> <li>●自己決定支援について、『認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定ガイドライン』（出典：厚生労働省）をもとにポイントを確認して事業所内のスキルアップを図った。</li> <li>●センター広報紙を年1回発行し、センターの周知を図った。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●常に対象者の思いを再確認したことで、対象者の自己決定につながった。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自己決定支援を行うためには、本人の思いを繰り返し確認することや、支援者間のチームワークが必要であることから、さらなるスキルアップの必要がある。</li> </ul>
権利擁護事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民生児童委員や圏域内居宅介護支援事業所、サービス事業所へ高齢者虐待防止の普及啓発を行う。</li> <li>●地域住民や民生児童委員、圏域内居宅介護支援事業所、サービス事業所へ消費者被害防止の普及啓発を行う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●消費生活センターや明石警察からの聞き取り後、消費者被害防止の啓発チラシを作成し地域住民や民生児童委員へ配布した。</li> <li>●居宅介護支援事業所にも虐待や詐欺防止の啓発を行った。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●啓発活動を継続して行っている。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●消費者被害の手口は日々変化するため、チラシの情報をこまめに更新する必要がある。</li> </ul>
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護支援専門員のネットワークの構築・活用や、後方支援を行い、介護支援専門員の質の向上を図る。</li> <li>●事業所として、介護保険に関する法令順守、適切なアセスメントが実施できる。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オンラインによる介護支援専門員向け研修と交流会を実施した。</li> <li>●居宅介護支援事業所の巡回訪問を実施した。</li> <li>●ケアマネジメントの進め方の学習会、事例検討会、研修会を実施した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●介護支援専門員との顔の見える関係ができて、気軽に相談が入る。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●介護支援専門員と地域（民生児童委員等）との交流の場が必要である。</li> </ul>
地域ケア会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域ケア会議により、個別課題の解決と同時に地域課題の把握・発見ができる。</li> <li>●把握・発見した地域課題を、地域住民や関係機関と共有し課題解決に向け取り組む。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護支援専門員や地域住民からの相談を受け、適時地域ケア会議を開催した。</li> <li>●相談対応した事例と地区診断結果を合わせて見える化することで、地域住民や関係機関と課題を共有した。</li> <li>●地域組織、住民と防災の個別支援計画を通じた取組を実施した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域組織や住民と防災の個別支援計画と一緒に取り組むことで、地区の現状がより明確化できた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●明らかになった課題の解決に向けて、地域住民と共有を行っていききたいがコロナ禍でタイミングが難しい。</li> </ul>
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象者の主体的な活動や地域とのつながりを意識したケアマネジメントを行う。生活課題から地域課題を抽出し、地域とのつながりの中で生活課題の解決を目指す。</li> <li>●地域住民の介護予防の意識を高めるための啓発を行う。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域との繋がりのなかで生活課題の解決に向けた検討を行った。</li> <li>●介護予防の観点から、市の体操DVDの配布や地域の体操教室などの通いの場を紹介した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●通いの場の情報を把握し相談者に提供できるよう整理できた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●対象者の生活上の困りごとの集積から地域の問題を抽出する必要がある。</li> </ul>

生活支援体制整備事業	●高齢者の支援ニーズや社会資源の状況を把握し、それらに見える化する。見える化したものを地域団体と共有し目指す姿や方針の共有ができる。 ●地域住民が気軽に立ち寄って交流を図れたり、住民と専門職が話し合えたりする等の活動拠点づくりに向け、小学校区ごとの現状把握と働きかけるべき地域団体を把握できる。	3	●高齢者の支援ニーズや社会資源の状況を把握した。 ●支援ニーズや社会資源のリストアップなど、見える化に取り組んでいる段階である。 ●小学校区ごとの現状や地域団体を把握した。	【強みと考える点】 ●地域住民や通いの場から相談や気になること、こんなことをしてみたい(集会所で体操を始めたい等)の声掛けがある。
				【弱みと考える点】 ●把握した地域の現状や地域団体などについて、相談者等に提供できるよう整理する必要がある。
在宅医療介護連携	●ACPの重要性について介護保険利用者や介護サービス事業所に向けて啓発する。 ●個別ケースについて、医療機関など多職種と連携を図ることにより本人の意思を尊重した支援・対応ができる。	4	●居宅支援事業所にACPの実践について研修会を開催した。 ●介護保険利用者や地域の困難ケースに対して、訪問時にACPの啓発をした。 ●医療介護連携の課題の有無、内容について毎月集計を行い、センター内でも共有した。	【強みと考える点】 ●ACPの啓発や居宅介護支援事業所等と情報交換を行っている。本人や家族との話し合いのタイミングに悩む介護支援専門員もいる中で、チームで看取り支援をした実践例を通して、ACPの重要性や醍醐味なども共有した。
				【弱みと考える点】 ●連携をスムーズに図れるよう、医療機関の特徴を知るために巡回訪問等を通して情報を整理する必要がある。 ●今後、地域の通いの場でも啓発が必要である。
認知症総合支援事業	●認知症の恐れがある人に対して、早期診断・早期対応につなげることができる。 ●地域における認知症の理解推進や認知症支援に携わるボランティアの育成のための取り組みができる。	4	●初期集中支援チームを活用し、早期対応につなげた。 ●早期発見のためのネットワーク構築に向けて認知症啓発チラシを作成し、コンビニ、スーパー、金融機関、薬局に配布した。 ●オレンジサポーター養成講座の受講促進チラシをコンビニ、スーパー、金融機関、薬局に配布した。明石小と神大附属小へキッズサポーター養成講座の案内をした。	【強みと考える点】 ●複数の郵便局等と早期発見のネットワークができた。 ●大型店舗や金融機関からオレンジサポーター養成講座の依頼が入る等、認知症理解の促進につながった。
				【弱みと考える点】 ●認知症の理解促進のため、小単位の住民団体へアプローチを行う必要がある。
その他	【上記以外で目標設定して取り組んだ事業(多機関協働、いきいき元気アップ等)】			【強みと考える点】
				【弱みと考える点】
運営改善計画①	取り組みの結果	具体的に取り組んだ内容・実績		取り組みにより達成した成果(状態) (※できなかった部分は理由を含めて記載)
	△  部分的な事業改善はできたが、目標評価の達成には至らなかった。	地区診断の取り組みの中で、地域住民へのヒアリングを実施した。ヒアリング結果やデータ分析結果をセンター内で共有し、地区診断の結果をマッピング等見える化した。		地区診断に取り組み、地域の現状把握を進めたが、地域住民のニーズや課題の抽出ができていない地域と、できていない地域がある。認知症高齢者への取り組みが必要であることについて、地域のキーパーソンと共有できたので今後具体的な課題のイメージを共有する働きかけを行っていただければと考えている。
運営改善計画②	取り組みの結果	具体的に取り組んだ内容・実績		取り組みにより達成した成果(状態) (※できなかった部分は理由を含めて記載)

【達成度】…5(十分に取り組んでおり、目指す成果に至った) / 4(概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった) / 3(一部着手したが、取り組んでいない部分がある) / 2(取組計画の立案等はしたが、着手できなかった) / 1(取組計画の立案等に至らなかった)

2021年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	にしあかし総合支援センター
運営主体	社会福祉法人社会福祉協議会
担当中学校区	望海、野々池

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	●サテライト相談で、広い年齢層から早期に困りごとを受け付け、解決できる。	4	●住民の関心が高い骨密度や血管年齢測定等の測定会とサテライト相談を同時開催した。	【強みと考える点】 ●生活に直結した相談が増えた。 ●コロナ禍にも関わらず複数名から相談を受けることが多かった。
	●相談しやすいサテライト相談にする工夫を行い、相談件数が増える。	4		【弱みと考える点】 ●コロナ禍での参加人数を考慮し回覧等の周知を見合わせたこと等から、必要な方に情報が行き届いていない可能性がある。
権利擁護事業	●専門職や地域住民と連携して、消費者トラブルの未然防止に向けた『騙されない地域づくり』を目指す。	4	●センター職員全員で地域の集まりや訪問時に利用者・住民・専門職にその地区で起きている消費者トラブルの情報共有を行った。また、地域の防犯協会と協働で青色防犯パトロールを活用し、多世代に消費者被害の注意喚起を行った。	【強みと考える点】 ●消費者被害・特殊詐欺の啓発を幅広い対象へ行うことができた。 ●住民主体でACP、終活について、普及していきたいという意識が高まっている。
	●住民や専門職が金銭管理の制度を理解し、金銭管理の自立支援の視点を持つことができる。 ●金銭管理が必要なタイミングで早期に制度を利用できるようになる。	4	●7月に介護支援専門員対象に金銭管理の自立支援の講義を実施した。3月にも実施予定だったが、コロナ禍で来年度に延期した。その後、介護支援専門員から、将来の備えに関して2事例相談があった。 ●ACPの啓発と連動し、住民に終活や任意後見制度等、将来の備えについての講義を年5回行った。その結果、住民から問い合わせが9件あり、新たな講義依頼や将来の備えについての啓発を住民と協働で行えた。	【弱みと考える点】 ●消費者被害・特殊詐欺の注意喚起は、住民主体の活動になっていない。 ●高齢者への啓発が中心となり、現役世代への周知が日中不在のことが多いこともあり、不十分となった。 ●介護支援専門員と後見人等が互いの業務内容・役割を理解する機会がない。 ●元氣なうちから備える支援を主眼にしていたため、要援護者に対する備えの支援の啓発ができていない。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	●圏域内の介護支援専門員が虐待の危険因子の発見と早期に課題解決を図る力を持つことが出来る。	4	●居宅巡回訪問時、明石市における高齢者虐待通報者の統計から、介護支援専門員からの通報が非常に多い等、早期発見・通報の視点を伝え、高齢者虐待対応の際に介護支援専門員の戸惑い等の聞き取った。	【強みと考える点】 ●介護支援専門員は、高齢者虐待の早期発見に対する意識が高い。 ●ネットワークの構築ができ、それぞれの介護支援専門員が救急れんらくばんやインフォーマルサポートについて意見交換できる関係性ができた。
	●地域の介護支援専門員が地域資源や活動を視点に入れたアセスメントを行うことで、自立支援に向けたケアマネジメントを実施することができる。	4	●居宅介護支援事業所の介護支援専門員を対象に、意見交換会等(ほっこりミーティング)を開催した。 ●活動しているサロンの情報を提供し、介護支援専門員が希望するサロンに訪問し、地域資源の体験会を行った。 ●ほっこりミーティングにて、自立支援の視点から考える日常生活での金銭管理について講義を受け、参加者同士の意見交換にて考える機会を持った。	【弱みと考える点】 ●高齢者虐待を早期に発見できる機会の多い居宅介護支援事業所やサービス事業所が、現在も、高齢者虐待防止を発見・対応する際に戸惑いや不安を感じている。
地域ケア会議	●認知症状が進行し、重度化してから相談を受けることが多いため、比較的軽い状態のあいだに相談対応ができることができるよう認知症の意識啓発を行う。	4	●まちなかゾーン会議でセンターにおいて対応している認知症に関する相談内容を説明し、民生児童委員やボランティアからの相談事例を用いて意見交換を行った。その後、西明石版ACPの啓発を行う等、認知症を我がごととして認識できるよう意識啓発を行った。 ●まちなかゾーン会議で「感染症に対する差別解消啓発ポスター」を作成した。地域や店舗等での掲示で啓発するとともに、コロナ禍でも継続して地域活動を行っている団体へは活動風景や参加者からの感謝のメッセージを動画にし、上映することで活動を見える化した。	【強みと考える点】 ●ボランティアなどの地域活動者自ら、資料を用いたACPの説明実施ができた。 ●住民が主体的に率先して、地域や店舗で啓発ポスターの掲示依頼や自治会回覧をすることができた。
	●新型コロナウイルスによる差別・偏見の解消。 ●校区内でストップしている地域福祉活動の再開に向けた後押しとなる取組を行い、活動を再開する団体が増加する。	3		【弱みと考える点】 ●今年度は【元氣なうちから備える】をテーマに高齢者を中心に啓発したが、要援護者の子ども世代等、多世代に周知していく必要がある。 ●地域活動が再開できていない地域への後押しが不足している。
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	●インフォーマルサポートを活用したケアプランが作成できる。	4	●ほっこりミーティングでのインフォーマルサポート紹介と地域のサロンへの同行により、ケアプランに、インフォーマルサポートを位置づける意識が高くなっており、必要時位置づけられている。	【強みと考える点】 ●インフォーマルサポートに繋がったことで、ケアプランに必要時位置づけられている。
	●地域住民の介護予防ができ、繋がりをもちながらイキイキと自立した生活が送れる。	3		【弱みと考える点】 ●要援護者が万が一に備え、どう生きたいかの目標設定が本人・担当者共に曖昧である。

生活支援体制整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●孤立死を防げるよう、自治会内に様々な居場所や見守り活動が存在し、気になる方への見守りが行われている地域づくりをめざす。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者が活躍しながら見守り合う仕組みづくりを支援するため、健康測定会を開催した。測定会には自治会加入の有無に関わらず、初めて地域活動に参加した複数名を含め、約40名が参加した。健康測定会を通じ顔の見える関係性ができたことで、70歳代看護師や若い担い手の参加等、多世代が交流しながら見守り合う機会の創出につながった。</li> <li>●花園校区でいきいき元気アップ教室を開催したことで、初めて介護予防を目的とした自主活動グループとして地域の集い場ができた。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会加入の有無にかかわらず、誰でも参加できる健康測定会が展開できた。</li> <li>●センター職員全員が専門性を発揮しながら地域活動に参加できている。</li> <li>●全ての小学校区に介護予防につながる運動と交流の場を目的とした自主活動グループが立ち上がった。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●チラシの作成、全戸配布や当日の運営等住民が担っている役割が大きく、健康測定会は半年に1回程度の開催頻度になっている。</li> <li>●地域によっては、対象者が自治会限定の会場が数か所あり、誰でも気軽に参加できる居場所となっていない。加入有無に左右されない居場所を増やしていくための働きかけが必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護予防ができ、地域住民がいきいきと生活できる居場所がある。</li> <li>●地域住民に広く周知されている地域支え合いの家が、子ども、高齢者、障がい者等様々な住民が参加できる居場所となることを目指す。</li> </ul>	3		
在宅医療介護連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●圏域内の医療機関と顔の見える関係づくりを行うことで、困難ケースの早期発見、スムーズな連携を目指す。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療巡回を実施(30事業所)し、センターの周知や顔の見える関係づくりができた。</li> <li>●新型コロナウイルスの影響で、地域講師を招いて、地域住民、医療、介護関係者との勉強会は実施できなかった。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●医療機関を巡回することで、センターの役割を伝えることができた。顔の見える関係ができてきた。今後相談件数等の増加に期待。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●医療巡回で得た情報をもとに、連携課題を抽出し課題に沿った、医療機関とセンターの役割理解を促進するための働きかけが必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療機関の情報を活用し、医師が地域に向いて講座を開催することで、医療介護関係者・住民等のネットワーク構築を図る。</li> </ul>	3		
認知症総合支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域住民が、認知症の知識を深め、対応方法を知ることによって、認知症になっても安心して地域で暮らすことができるまちづくりを目指す。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●健康教室で地域住民に、認知症の勉強会を6回実施した。</li> <li>●認知症に特化したACPに取り組んだ。主に高齢者に対し、地域のサロン、あかねカレッジのライトコース等で、終活、ACPを啓発した。オリジナルのACPツールも周知した。まちなかゾーン会議での認知症の知識の普及やACPについて検討している。</li> <li>●オリジナルACPツールを、センター広報誌で紹介、また地域の拠点となる各コミセンや厚生館に設置を依頼し設置できた。厚生館と協働し、館長やスタッフがACPの説明を実施し、住民主体の活動に繋がった。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コミセンに設置したオリジナルのACPツールの在庫がなくなったこと、地域から追加資料の提供を求められたことから、ACPの考え方が地域に少しづつだが伝えられた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢者を中心に認知症やACPについて浸透しつつあるが、若い世代に対しての周知が不十分であり、今後、若い世代に対しての啓発が必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民が認知症になっても自分の意思が尊重されるように、将来の人生設計について考えることができる。</li> </ul>	4		
その他	【上記以外で目標設定して取り組んだ事業(多機関協働、いきいき元気アップ等)】	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●2会場で元気アップ教室を実施し、それぞれ自主活動グループ化することができた。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●自主活動グループ化した時点で、新たに活動者が増え、活動が継続出来ている。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p>
運営改善計画①	<p>取り組みの結果</p> <p>○</p>	<p>具体的に取り組んだ内容・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域のサロンや健康教室などで今起きている特殊詐欺や消費者被害についてリアルタイムでチラシを用いて注意喚起を行った。</li> <li>●野々池では、地域の防犯協会と協働で青色防犯パトロールを活用し、多世代に消費者被害の注意喚起を行うことが出来た。</li> <li>●望海では、健康教室に参加されていない近隣住民にも特殊詐欺のリアルタイムの情報を周知してもらうように呼びかけを行った。</li> </ul>	<p>取り組みにより達成した成果(状態)</p> <p>(※できなかった部分は理由を含めて記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民に対しての啓発実績が昨年度と比べ約170倍増(働きかけた住民数)となった。</li> <li>●住民と協働で多世代に消費者被害や特殊詐欺の啓発を行うことが出来た。</li> </ul>	
	<p>事業改善により目標評価を達成した。</p>			
運営改善計画②	<p>取り組みの結果</p> <p>△</p>	<p>具体的に取り組んだ内容・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●7月に介護支援専門員対象に、金銭管理の自立支援の講義を実施した。</li> <li>●3月にも成年後見制度の講義を予定していたが、コロナ禍で来年度に延期となった。</li> </ul>	<p>取り組みにより達成した成果(状態)</p> <p>(※できなかった部分は理由を含めて記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●介護支援専門員から、将来の備えに対して2件相談があった(昨年度は0件)、それ以外にも問い合わせの連絡があった。</li> <li>●コロナ禍のため、年2回の講義の開催予定が来年度に延期となったため、目標達成には至らず。</li> </ul>	
	<p>部分的な事業改善はできたが、目標評価の達成には至らなかった。</p>			
運営改善計画③	<p>取り組みの結果</p> <p>△</p>	<p>具体的に取り組んだ内容・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●野々池では、住民が自分の将来を我がこととして捉えることができるように、ACPやエンディングノート、任意後見制度等の講義を年5回行った。</li> <li>●望海では、健康教室などで地域住民へ認知症やACPの勉強会を実施した。</li> </ul>	<p>取り組みにより達成した成果(状態)</p> <p>(※できなかった部分は理由を含めて記載)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●野々池では講義後、住民から問い合わせが9件あり、新たな講義依頼や将来の備えについての啓発を住民と協働で行えた。</li> <li>●望海では、健康教室でACPの勉強会を開催したため、高齢者の一部のみへの周知となり、幅広い世代への周知には至らず。</li> </ul>	
	<p>部分的な事業改善はできたが、目標評価の達成には至らなかった。</p>			

【達成度】…5(十分に取り組んでおり、目指す成果に至った) / 4(概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった) / 3(一部着手したが、取り組んでいない部分がある) / 2(取組計画の立案等はしたが、着手できなかった) / 1(取組計画の立案等に至らなかった)

2021年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	おおくぼ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	大久保、江井島、大久保北、高丘

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	●分野横断的な支援が必要な相談受付を正確にスクリーニングでき、住民に不利益のない対応が行える体制を目指す。	4	●的確な相談受付を目指し、受付状況から抽出した課題についてセンター長より職員に対して、10回フィードバックを行った。 ●相談受付から対応についての研修を実施したことで、適切かつ迅速な相談受付、対応につながった。	【強みと考える点】 ●多角的な状況把握や課題整理ができるよう、職員に対し研修を実施しながら相談対応力の向上が図れた。  【弱みと考える点】 ●地域の特性に合わせた出張相談を工夫し、地域に対し、より身近なセンターとして周知する必要がある。
権利擁護事業	●複合多問題ケースや高齢者虐待ケース等への対応を行うために必要な高度なケースワーク能力を三職種が有し、スムーズな多機関多職種との連携などを通じ個別ケースの問題を適切に解決できる体制を目指す。 ●複合多問題ケースへの支援における支援調整会議等多機関での合意形成が行え、支援構築ができる体制を目指す。	4	●関係機関（民生児童委員協議会等）において3回消費者被害、高齢者虐待等のチラシを持参し啓発に努めた。 ●住民の権利擁護に関する対応を行うために、必要な技術や知識等の検討を社会福祉士を中心に11回実施し、複合的な課題を抱える事例等への対応能力の向上に努めた。 ●複合的な課題を抱える事例の支援の方向性等を検討する会議開催時のファシリテーション等に関する研修を実施し、支援チームとしてのマネジメント能力の向上に努めた。	【強みと考える点】 ●権利擁護に関する情報交換をセンター内で頻繁に行い、対応力向上ができた。  【弱みと考える点】 ●複合的な課題を抱える事例においては、関係機関との適切な連携を行うため、職員の調整力向上の必要性がある。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	●介護支援専門員からの相談内容を把握し、居宅介護支援事業所等が課題解決できるように必要な情報提供等の支援を行う。	4	●居宅巡回（28事業所）を行い、顔の見える関係の構築と情報提供等を行うことで、適切なケアマネジメントの提供につながった。 ●居宅介護支援事業所を対象に、高齢者虐待に関する研修会を実施し、利用者の権利擁護に資する支援が行えるよう努めた。	【強みと考える点】 ●居宅巡回を継続し、居宅介護支援事業の顔の見える関係が構築できてきている。  【弱みと考える点】 ●居宅介護支援事業に対するケアマネジメントの課題の把握や支援者支援の体制が不十分である。
地域ケア会議	●複数の個別事例から地域課題を明らかにし、地域課題を解決するための政策を、市等に提言する体制を構築する。 個別ケース検討会議やまちなかゾーン会議を含む地域支援に関する活動よりセンター職員が把握した問題について、地域住民に共有すべき課題は地域住民を中心とする会議体へ、専門職行政が中心となって検討すべき広域的な課題については専門職行政が中心となる会議体へ提言する体制を構築する。	3	●行政、専門職間あるいは、行政や専門職と地域住人の連携が必要な事例において36件の地域ケア個別会議を開催した。オリジナルシートを活用して、開催した会議から地域課題の抽出に努めた。	【強みと考える点】 ●個別事例からの課題を地域課題へ転換するプロセスの整理が行えた。  【弱みと考える点】 ●抽出した地域課題について仮説を立てるとともに、さらなる明確化に向けて、地域課題を住民と共有していく必要がある。
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	●支援が必要な高齢者等が必要な支援を受けられるように介護支援専門員への情報提供等のサポートを行う。 地域の居宅介護支援事業所にも発信し、圏域全体で介護保険サービス以外の地域のつながりを検討できるサポートを行う。	4	●事例を振り返る機会を年2回持ち、状態に応じて自立した地域社会生活を維持できるよう、本人の望む生き方の確認や本人のもっている力（できること、強み）等の維持・回復を支援できるケアマネジメント実践に努めた。 ●インフォーマルサポートも含めたケアプラン作成ができるように居宅介護支援事業所を対象に地域資源等の情報提供を随時行った。 ●地域にある体操等を行う自主グループへの支援を行い、互助による介護予防に取り組んだ。	【強みと考える点】 ●地域住民との信頼関係が徐々に構築され、住民活動の場に出向く機会が増えたことで、地域にあるインフォーマルサポートについて、より詳しい情報を介護支援専門員等専門職へ提供できている。  【弱みと考える点】 ●社会生活の維持回復を主眼とした自立支援のための取組の強化が必要となっている。

生活支援体制整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●住民とのネットワークの構築により、地域内のニーズの把握や共有を行い、地域住民がこうありたいと望む地域の姿をともに検討し、目指す地域像の明確化を図る。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●より適切な地域支援につながるよう、地域ごとの特性に合わせて、地域での実践に関する検討を職員間で年6回実施した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民主体の活動への参加を通し、地域住民との関係が徐々に構築できており、地域福祉活動、地域特性についての理解が進んでいる。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民活動への参加や、顔の見える関係づくりに留まっており、地域支援におけるプロセスの整理や、間接的援助技術を活かした住民活動のサポートが十分に行なえていない。</li> </ul>
在宅医療介護連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ケースワーク等対応力のスキルアップを図る。</li> <li>●医療職会議で話し合われた内容を、多職種と共有し、課題の整理・明確化をする。</li> <li>●相談等の統計から医療と介護の連携に関する課題を抽出し、課題を分析する。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療に関する研修等を実施し、在宅医療・介護連携における対応力向上につなげた。</li> <li>●医療巡回でヒアリングを行い、在宅医療・介護連携についての課題を抽出し、明確化に努めた。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●医療巡回を通じ、顔の見える関係が構築でき、スムーズな連携に繋がっている。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●医療巡回で明らかになった課題や、関係機関の強みや特性を集約し、医療と介護の連携体制構築に向け、取り組むべき課題を検討していく必要がある。</li> </ul>
認知症総合支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高齢化率の高い地域を中心に幅広い世代での認知症理解啓発の必要性を地域住民と共有し、働きかけの手法について検討を行う。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オレンジサポーター養成講座を年21回実施し、オレンジサポーターを養成することで正しい認知症に関する知識の啓発に努めた。</li> <li>●3か所の認知症カフェの主催者と連携し、企画、周知等について検討し、チラシ等の作成配布によって必要な方への情報が伝達されるよう配慮した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●オレンジサポーター養成講座を通して、協力的な企業、教育機関とのネットワークが構築されている。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●オレンジサポーター養成講座等開催時に、地域のキャラバンメイトの力を十分に活かせていない。</li> </ul>
その他				<p>【強みと考える点】</p> <p>【弱みと考える点】</p>
運営改善計画①	取り組みの結果	具体的に取り組んだ内容・実績		取り組みにより達成した成果（状態） （※できなかった部分は理由を含めて記載）
	<p>△</p> <p>部分的な事業改善はできたが、目標評価の達成には至らなかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護支援専門員が必要としている情報を提供できる内容の研修会の企画・開催を目指し、居宅巡回を実施した。</li> <li>●介護支援専門員を対象とした研修会・事例検討会の開催計画を作成し、居宅介護支援事業所の訪問の際に案内し、参加を促した。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●居宅巡回を行ったことで、身寄りがない方、複合的な課題を抱えた世帯への支援について悩みがあることを把握した。</li> <li>●コロナ禍で主催する研修会等を自粛したため、具体的なアプローチには至っていない。</li> <li>●明石市介護サービス事業者連絡会居宅部会主催の事例検討会の開催をサポートし、家族者介護支援、介護拒否がある方の支援について検討し、支援の方向性等の共有を行った。</li> </ul>
運営改善計画②	取り組みの結果	具体的に取り組んだ内容・実績		取り組みにより達成した成果（状態） （※できなかった部分は理由を含めて記載）

【達成度】…5（十分に取り組んでおり、目指す成果に至った）／4（概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった）／3（一部着手したが、取り組んでいない部分がある）／2（取組計画の立案等はしたが、着手できなかった）／1（取組計画の立案等に至らなかった）



2021年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	うおずみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人 明石市社会福祉協議会
担当中学校区	魚住東・魚住

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	●高齢者分野にとどまらずあらゆる相談を受け止め、相談内容を整理して、関係機関につなぐ。	4	●受理面接にて年代、分野、内容に関わらず相談を受け止め、必要な制度への繋ぎや情報提供を実施し、多職種で共有することにより、円滑な支援に繋がった。	【強みと考える点】 ●相談を受けた事例について様々な機関と連携を密に行い個別課題の解決に取り組んだ。 【弱みと考える点】 ●他の支援機関に繋いだ後も継続した地域生活が送れるよう、取り組む必要がある。
	●地域の関係機関・関係者とのネットワークを活用し相談窓口の周知、個別課題や地域課題を解決を図る。	4	●新たな出張相談の場を開設し、地域のサロン等住民の活動拠点にも積極的に赴き、相談に繋がりがやすい関係形成を図り、介護予防等の講座も開催した。	【強みと考える点】 ●新たな活動拠点にも出向き顔の見える関係性を構築した。 【弱みと考える点】 ●センターへの相談が少ない地域に出向くことで、センターの周知不足や居場所の資源が乏しいという地域課題を発見したが解決策については住民と検討段階である。
権利擁護事業	●高齢者虐待・消費者被害の啓発を行い、早期発見・早期対応の重要性について理解が深まり、予防の見守り体制や解決に向けた支援体制を構築することが出来る。	4	●居宅介護支援事業所に対し虐待事例研修会を開催し、早期通報、チーム対応の重要性を啓発した。居宅介護支援事業所を巡回し虐待対応についての情報共有、啓発を実施した。 ●居宅巡回、虐待事例研修会のアンケートによる介護支援専門員のニーズ把握から出た課題をもとに、後見支援センターと協働し金銭管理についての学習会を行い、相談窓口の周知・情報交換を実施した。 ●消費生活センターへ実態把握を行い、民生児童委員協議会、居宅介護支援事業所、サロン等へ情報提供と、自治会への研修など啓発活動を行った。	【強みと考える点】 ●高齢クラブの会員からの消費者被害について個別相談を機に、自治会会員向けに研修会を実施した。 ●地域の介護支援専門員より金銭管理、成年後見制度への適切な繋ぎ方について学びたいと聞き、学習会を実施した。 【弱みと考える点】 ●民生児童委員、介護支援専門員の啓発は行えたが、介護サービス事業所への啓発が不十分であった。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	●圏域内の介護支援専門員のニーズや課題に基づいた研修会等を行い、包括的継続的ケアマネジメントを実践できるようにする。	3	●居宅巡回でニーズを把握し、その課題に応じて後見支援センターとの研修会や要援護者の防災を考える研修会を企画、実施した。	【強みと考える点】 ●居宅介護支援事業所に出向く機会を増やすことにより、介護支援専門員からの声を聞き取り、相談しやすい環境づくりに努めた。 【弱みと考える点】 ●地域のインフォーマルサポートとより一層連携を強化していきたい。
	●多様な関係機関との連携をスムーズに行えるよう、様々な機関との情報交換の場を設ける。	3	●精神科病院の医療ソーシャルワーカーと地域の居宅介護支援事業所の連携強化のため、居宅介護支援事業所を対象に研修会を実施し顔の見える関係性を構築した。	【強みと考える点】 ●研修会を実施するまでの過程において地域の精神科医療ソーシャルワーカーとの関係性が強くなり、個別事例の相談などを双方で行いやすくなった。 【弱みと考える点】 ●医療ソーシャルワーカー不在の医療機関との連携について考えていきたい。
地域ケア会議	●個別ケア会議から抽出した課題を、関係する事業と連動し資源開発・政策形成・地域づくりにつなげることができる。	3	●地域ケア個別会議のモニタリングを行い、本人の活躍の場を提案し社会参加に繋いだ。 ●まちなかゾーン会議において、健康課題を共有し、フレイル予防教室を実施した。	【強みと考える点】 ●勉強会、居宅巡回を通じ、地域の介護支援専門員とセンターの関係性を強化することにより本人の社会参加を促進できた。 【弱みと考える点】 ●コロナ禍で介護予防教室が開催できなかったことを受け、今後は代替方法をまちなかゾーン会議で検討する必要がある。
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	●自立支援に向けたケアマネジメントが進むよう、介護保険の利用者、および地域住民に介護保険制度の趣旨、地域活動の意義等を啓発していく。	4	●地域住民に向けて介護保険制度の趣旨や介護予防の取り組みの重要性についてサロンなどで啓発活動を行った。	【強みと考える点】 ●センター内の介護支援専門員に周知が進み、インフォーマル資源の情報を活用したケアマネジメントが実践できた。 【弱みと考える点】 ●個別事例から地域課題への抽出までは進めていない。

生活支援体制整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新たな出張相談(いきいきサロンにしき)を住民に周知し、気軽に集いつながる居場所、支え合いの拠点づくりを行う。</li> </ul>	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎月1回介護予防に資するイベントを同時開催し、支援の必要な事例やニーズの発掘を行った。</li> <li>●周知活動として、独居高齢者の個別訪問のほか、まちづくり協議会と協働してLINEによる広報を実施した。</li> <li>●まちなかゾーン会議において今後住民主体の活動に移行するような働きかけを行った。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●活動場所や広報活動に、まちづくり協議会の協力を得られる関係づくりができています。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●主体となって活動を継続する住民の発掘に向け協議を行っていく必要がある。</li> <li>●活動場所が固定され、遠くの住民が通いにくい。小学校区内に集いの場が少ないため徒歩で通える場の開発が必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●まちづくり協議会・民生児童委員などとの連携を取り、地域づくりについての意見交換の場を作る</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会、民生児童委員と協働し住民へのアンケート調査を行い、それに基づいて地域課題についての意見交換を行い、居場所づくりについて協議した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民と協働してニーズを抽出したことにより、住民自身が地域課題として捉え意見交換につながった。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●地域課題の解決に向けての取り組みを行っているが、十分な成果を得られるまでにさらに協議が必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●把握した地域のインフォーマルな社会資源を見える化し、地域の支援者によってニーズと適切なマッチングが行えるような体制を作ると共に地域住民の生きがいや役割づくり、活動の継続を支援していく。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自治会や高年クラブにサロン活動の案内を行い、参加を呼びかけた。高年クラブを中心に住民同士で参加の声を掛け合った。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民同士が自発的に声を掛け合い活動に参加するようになった。介護支援専門員の研修の場で自主グループ活動、サロンの情報を提供した。サロンまで同行する等の行動に結びついた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●要介護者のニーズに応じた地域生活支援を行うために、圏域内の介護支援専門員に対してインフォーマルな社会資源に適切につなげるよう、働きかけが必要である。</li> </ul>
在宅医療介護連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の医療介護連携について検討できる場をつくる。</li> </ul>	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医療巡回をし、センターの役割について周知を行うとともに、医療機関に対し居宅介護支援事業所との情報交換の場開催の必要性について投げかけた。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●医療巡回を行うことで、センターが医療連携の窓口となっていることを再度周知することができ、医療機関側よりケースの相談が増え、介護保険制度利用につながった。そのことで、理解を得られ、次年度の取り組みに向けた医療介護連携の関係づくりを行う事ができた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全ての医療機関を巡回することが出来ていないため、次年度実施し、地域課題を抽出していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域住民が、ACPを我がこととして捉えられる様に、小さな団体からでも啓発活動を行っていく。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小学校区で1回、サロンにおいてACPとエンディングノートについて、啓発活動を実施した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●住民を対象に、もしもの時を考える働きかけができ、ACPをより身近な問題として啓発が行えた。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●『あなたの思いをお聞かせください』を活用し、住民が受けたい医療・介護について簡単に意思表示が出来るきっかけとなるよう、サロンなどで機会を設け、講義・グループワークを通じて啓発を行う必要がある。</li> </ul>
認知症総合支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●相談内容が重度化する前に、地域から相談を受け、孤立化予防、早期対応ができる体制が整備できている。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●民生児童委員、地域のボランティア、自治会長、サービス事業所などに認知症に関してインタビュー形式で聞き取りを行うことにより、地域課題を抽出した。</li> <li>●認知症カフェのボランティアに対して研修会を実施した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症カフェのボランティアとの交流を活発に行うことによりケースの早期発見早期対応が可能になった。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症カフェのように認知症のある人や家族が参加しやすく相談ができる居場所づくりの働きかけがさらに必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども、学生を含む地域住民に認知症に対する正しい理解を促進し自然に助け合いができる地域づくりを目指す。</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●オレンジサポーター養成講座を小学校、中学校高校と広く学生に実施できた。</li> <li>●シルバーサポーター養成講座を3月に実施した。</li> </ul>	<p>【強みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●毎年継続的に働きかけを継続することで幅広い世代で認知症理解の啓発が出来ている。</li> </ul> <p>【弱みと考える点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●キャラバンメイト間の交流を設けることにより、連携、協働して活動する機会を増やす必要がある。</li> </ul>
その他	【上記以外で目標設定して取り組んだ事業(多機関協働、いきいき元気アップ等)】			<p>【強みと考える点】</p>
運営改善計画①	<p>○</p> <p>事業改善により目標評価を達成した。</p>		<p>具体的に取り組んだ内容・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●精神科病院の医療ソーシャルワーカーと居宅介護支援事業所の介護支援専門員との研修会を開催した。</li> </ul>	<p>取り組みにより達成した成果(状態)</p> <p>(※できなかった部分は理由を含めて記載)</p> <p>病院の医療ソーシャルワーカーと居宅介護支援事業所の介護支援専門員と顔の見える関係性が構築できた。また両方で困っている事例の検討を行うことで、お互いの立場を理解でき連携強化が行えた。</p>
	<p>△</p> <p>部分的な事業改善はできたが、目標評価の達成には至らなかった。</p>		<p>具体的に取り組んだ内容・実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●医療巡回は、数か所行え、センターの役割機能と、在宅医療連携窓口の周知ができた。しかし、全体の地域課題の抽出までは行えず、他機関との勉強会を開催することが出来なかった。</li> </ul>	<p>取り組みにより達成した成果(状態)</p> <p>(※できなかった部分は理由を含めて記載)</p> <p>医療巡回を計画的に行うことが出来なかったが、今回2機関は実施することができたため、今年度の訪問状況を加味して、次年度の取り組みに活かす。</p>

【達成度】…5(十分に取り組んでおり、目指す成果に至った) / 4(概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった) / 3(一部着手したが、取り組んでいない部分がある) / 2(取組計画の立案等はしたが、着手できなかった) / 1(取組計画の立案等に至らなかった)

2021年度 明石市地域総合支援センター事業報告書

センター名	ふたみ総合支援センター
運営主体	社会福祉法人明石市社会福祉協議会
担当中学校区	二見

区分	当初の重点目標	達成度	内容（事業実績）	質的評価
総合相談事業	●ワンストップ窓口として、いつ・どのような相談でも受け止め、スムーズな支援につなげられる体制が整備できている。	4	●年3回センター新聞を発行し、センターの役割、事業に対する周知を行った。 ●総合相談の聞き取りシートを再編し、視点の共通化に取り組むとともに、総合相談集計表を用いて地域課題を分析した。	【強みと考える点】 ●新聞発行の結果、住民よりセンターへ問い合わせが生じる等、周知に繋がった。
	●整理した圏域の課題を関係機関と共有し、多様な課題に対して円滑に協働できる関係が構築できている。	4	●地域の相談窓口機関と連携をとり、相互理解を図る場を持ち、ネットワーク構築の整備に取り組んだ。 ●サテライト相談会場を見直し、市民センター、厚生館にて実施した。	【弱みと考える点】 ●新任民生児童委員着任や地域特性の理由により民生児童委員経由の相談件数には偏りがあるが、センターの役割説明を行う機会が不十分。 ●市民センターと連携し、サテライト相談を開催したが、相談につながる事例が少ない。
権利擁護事業	●高齢者虐待や消費者被害に対する地域組織や住民の知識や意識を高め、通報や相談をより多様な方面から受けられる。	3	●集いの場へ巡回し、消費者被害に関する情報を共有、手口を紹介し注意を促し、センター新聞にも取り上げ周知した。 ●介護サービス事業所向けの高齢者虐待の勉強会を予定していたが、コロナ感染予防のため中止。	【強みと考える点】 ●消費者被害に関して、地域向けに啓発機会を持ち、地域住民より被害未遂の情報が寄せられ、注意喚起に繋がられた。
	●安心して住み慣れた地域で暮らしていけるよう、成年後見制度や日常生活自立支援事業の積極的活用につなげる。	4	●成年後見制度等の利用が必要な事例は、各関係機関と連携を図り、早期解決に繋がった。	【弱みと考える点】 ●高齢者虐待、成年後見制度に対して地域、居宅介護支援事業所にセンターの役割について十分啓発できていない。
包括的・継続的ケアマネジメント支援事業	●様々な困難事例に対応するため、地域や関係機関との連携を円滑に利用できる。	4	●総合相談から集約した地域課題、取り組みたいことを共有するため、二見守ろう会を開催した。 ●居宅介護支援事業所向けとして、インフォーマルサポート、防災について勉強会を実施した。	【強みと考える点】 ●居宅介護支援事業所等と、家族支援、防災に関する地域課題を、共有することができた。
	●地域のケアマネジャーが包括的・継続的マネジメントを円滑に実施できるよう支援する。	4		【弱みと考える点】 ●個別事例の支援を行うことに注力し、居宅介護支援事業所内の課題を十分に把握できていない。
地域ケア会議	●センターと、民生児童委員、地域関係者等が連携し個別課題について検討し、解決に導く。	4	●困難事例に関しては関係者を募り、地域ケア会議を開催した。民生児童委員参加の会議は1件開催した。 ●新聞取材を通じ関係性ができた中学校と、世帯支援の必要性がある事例に対して共有し、支援を進める過程において地域課題の共有を図ることができた。	【強みと考える点】 ●個別課題と地域課題を結び付けて情報共有する共通認識を持つことができた。
	●個別課題を通じて、地域課題として共通把握を行い、地域づくりにつなげる。	3		【弱みと考える点】 ●複合問題事例の支援の選択肢拡充のため、障害分野等のネットワーク開拓が必要である。
介護予防ケアマネジメント・指定介護予防支援	●効果的な介護予防や適正な給付管理ができるようになる。	4	●介護支援専門員に、新聞発行にてインフォーマルの資源を共有できた。ケアマネとの勉強会にて、生活支援コーディネーターの役割を説明し、インフォーマルサービスに関する意識づけを行なえた。	【強みと考える点】 ●情報共有や勉強会を通じて、一部のセンター内外の介護支援専門員のケアプランにインフォーマルサポートを反映できていることが確認できた。利用には至らなかったが、地域の介護支援専門員より自主生活グループに関する問い合わせがあった。
	●安心して住み慣れた地域で暮らしていけるよう、地域の社会資源を活用しながら、地域における交流や参加につなげる。	3		【弱みと考える点】 ●4職種が内部会議などで、センター内の介護支援専門員が抱えている個別課題を引き出す機会を十分には持てなかった。

生活支援体制整備事業	●民生児童委員や、まちづくり協議会、自治会等と連携することにより、地域での見守りや地域参加につなげる。	4	●新聞発行のための取材を通じて地域アセスメント(3小学校区ごとのつながり・支え合い状況等の把握)を実施し、教育機関、関係機関、企業、地域とネットワーク構築に繋がった。 ●介護予防、男性の役割創出に向け、学校、スクールガード・まちづくり協議会、PTAとまちなかうオーク実施、全世代の交通安全等について協議した。 ●ボランティア団体に住民主体の生活支援活動プロジェクトを提案したところ、ボランティア団体中心のアンケートを実施した。その結果、自治会主体のふれあい訪問事業起ち上げ支援を企画したが、コロナ禍で役員会の協議が中断している。	【強みと考える点】 ●地域のキャラクターを広報媒体として活用し、関係機関、住民との交流の機会が増えた。
	●個別課題や、既存のサロン等地域の支えあいの状況を踏まえた、地域課題を地域と共有し、新たな社会資源づくりにつなげる。	4		【弱みと考える点】 ●主に、市営・県営住宅等の集合住宅において、近隣同士のつながりが薄く、孤立傾向の高齢者世帯等を地域で早期発見できる仕組みが確立できていないことが課題である。
在宅医療介護連携	●地域の医療・介護の資源を把握し、在宅で切れ目のない、医療・介護サービスの連携が行える。	4	●二見地区にある地域連携室を持つ医療機関2施設に対し巡回訪問を行い、連携に必要な情報を共有した。 ●個別ケア会議を通じて、在宅医療・介護の連携が必要な困難事例の検討を行った。 ●サロン参加者、介護支援専門員に対し、ACPの周知をする予定だったが、コロナの影響で延期となった。	【強みと考える点】 ●在宅医療・介護の連携に課題がある事例について、居宅介護支援事業所の後方支援を実施した。 ●診療所や歯科医院からの相談が増え、対応依頼に繋がった。
	●在宅における医療・サービスに対して、地域住民の理解を得る。	3		【弱みと考える点】 ●コロナ禍で医療巡回が十分実施できなかった。 ●ACPの周知機会が少なかった。
認知症総合支援事業	●地域住民や関係者が認知症に対する理解を深め、相談機関への連絡や見守り等の対応ができるようになる。	4	●大型商業施設職員や、地域住民、小学生対象のオレンジサポーター養成講座を開催した。 ●全世代への認知症理解啓発のため、オレンジサポーター養成講座参加児童の感想を貼ったメッセージボードをコミセンで展示。また養成講座の受講について、保護者にも手紙を作成し、親世代への啓発にもつなげた。	【強みと考える点】 ●大型商業施設職員、教育機関等と、当事者・家族の気持ちに寄り添い、共有する機会を持てた。
	●認知症家族介護者に安心して継続できるよう支援ができる。	4		【弱みと考える点】 ●若年性認知症の当事者や、介護者のインフォーマルな居場所がない。
その他	【上記以外で目標設定して取り組んだ事業(多機関協働、いきいき元気アップ等)】		●いきいき元気アップ教室が2月から開催予定であったが、感染対策防止のため次年度(6月)に延期となった。	【強みと考える点】
				【弱みと考える点】
運営改善計画①	取り組みの結果	具体的に取り組んだ内容・実績		取り組みにより達成した成果(状態) (※できなかった部分は理由を含めて記載)
	○ 事業改善により目標評価を達成した。	●センター広報紙として、フタじい支え合い隊新聞を年3回発行した。小学校区ごとに、地縁組織や関係機関(学校、企業等)に取材し、地域の実情を把握して、関係性を構築し、課題解決に向けた協力体制の基盤ができた。		●新聞取材・発行を通じて、各関係機関にセンターの事業・役割を周知できた結果、全世代を対象とした複合多問題の課題解決に向け協力することができた。
運営改善計画②	取り組みの結果			取り組みにより達成した成果(状態) (※できなかった部分は理由を含めて記載)

【達成度】…5(十分に取り組んでおり、目指す成果に至った) / 4(概ね取り組んだが、成果は十分ではなかった) / 3(一部着手したが、取り組んでいない部分がある) / 2(取組計画の立案等はしたが、着手できなかった) / 1(取組計画の立案等に至らなかった)